

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

49

2017

オール愛媛で救急・地域医療の充実を

- DOCTOR'S VOICE 01 心・腎疾患の研究と啓発を続けながら、地域の格差是正に取り組む
- DOCTOR'S VOICE 02 多様な教育法で産科医を育成し、母と子に最善の分娩を実施
- DOCTOR'S VOICE 03 薬剤師として業務の質を高め、安心・安全な薬物療法を提供
- DOCTOR'S VOICE 04 部門全体でのスキルアップと、現在・未来の人材確保
- DOCTOR'S VOICE 05 ドクターヘリを活かした、一歩先の愛媛の救急医療体制の構築



新任教授紹介

心・腎疾患の研究と啓発を続けながら、地域の格差是正に取り組む

地域救急医療学 教授 大蔵隆文

近年、腎臓病の悪化対策が注目されています。私が委員長を務める愛媛慢性腎臓病対策協議会も、腎臓の大切さと、腎疾患の早期発見・治療への取り組みについて、啓発活動を行っています。私は循環器科医を目指し、大学で臨床及び研究を始めました。研修医時代から腎臓疾患に携わることも多く、腎臓についても臨床と研究を積み、現在は、専門である高血圧について心臓と腎臓の両方の観点から考える診療や研究を行っています。

地域救急医療学講座は、地方の医師不足と地域間の格差を是正するために開設され、私も週3回、市立八幡浜総合病院で診療を行っています。市立八幡浜総合病院では、通常の診療に加え、常勤医師との意見交換、循環器を中心とした救急医療を行っています。本講座や市立八幡浜総合病院の地域医療への取り組みの結果、市立八幡浜総合病院の医師数が徐々にではありますが、増加していることは嬉しいことです。さらに、研修医の先生方が市立八幡浜総合病院で研修を行い、将来同病院の常勤医として活躍されることを期待しています。また、社会活動として、高齢者の多い八幡浜地区で、地域の保健師さん等と協力し、救急搬送に至らないような予防医療の仕組みづくりができればと考えています。



PROFILE

おおくらたかふみ◎1986年愛媛大学医学部卒業、同年同大学医学部附属病院の第二内科で研修医。翌年松山赤十字病院の内科で研修医を続け、1988年から宇和島社会保険病院にて内科医師。1990年に附属病院第二内科、2013年には循環器・呼吸器・腎高血圧内科学の准教授となり、2017年4月から現職。

新任教授紹介

多様な教育法で産科医を育成し、母と子に最善の分娩を実施

地域小児・周産期学 教授 松原圭一

当院の産婦人科では、日本トップクラスの医療を展開しています。例えば、腹腔鏡下の広汎子宮全摘手術という初期の子宮頸がんに対する手術は、四国では唯一当院が行っています。周産期医療においても当院は充実しており、最善の医療を提供できる体制が整っています。

私は医師を志した時から、生まれてくる子どもとお母さんにとって最善の分娩を選択・提供したいと考えてきました。これを実現していくために、産科医の養成にシミュレーション教育を積極的に取り入れ、愛媛県全体のスキルの底上げを目指しています。昨年度から新生児蘇生法（NCPR）のシミュレーション教育を始め、また、医師や助産師など産科医療者全体のシミュレーション教育（ALSO）等も、今年度から新たに行う予定です。

また、地方でも徐々に医師が増えつつありますが、産科はまだ十分な状況ではありません。私も毎週、県立新居浜病院で診療に当たっており、地域の周産期医療を守るために、今後もしっかりとサポートを続けていきたいと考えています。そして、私の専門分野である妊娠高血圧症候群の研究を続け、更なる最善の分娩を提供できるように努力していきたいです。



PROFILE

まつばらけいいち◎1988年愛媛大学医学部卒業、1988年より附属病院で研修医となり、1995年に町立野村病院の産婦人科に勤める。愛媛県立中央病院産婦人科や新居浜病院産婦人科の医監部長、NTT西日本松山病院産婦人科の主任医長を歴任し、2012年附属病院母子センターの准教授。2017年4月から現職。趣味はバンド活動。

新薬剤部長紹介

薬剤師として業務の質を高め、安心・安全な薬物療法を提供

薬剤部長 田中亮裕

医療法改正で医薬品の安全管理体制の整備が義務付けられ、薬剤師が責任のある立場で医薬品の管理や指導を行い、安全性を確保することが求められています。それに伴い、薬剤師を各病棟に1人配置し、患者さんへの服薬指導はもちろんのこと、積極的な処方提案や副作用モニタリング、また、医薬品安全情報を整理、周知することで、医薬品の適正使用を推進しています。また、患者さんが切れ目のない薬物療法を受けられるよう退院・転院時における服薬指導やかかりつけ薬局、転院先への薬剤情報の提供を充実させたいと考えています。さらに外来患者さんへの薬物療法の支援を充実させるために、お薬受け渡し口に服薬支援コーナーを設けて、服薬支援に取組むとともに、薬局薬剤師との連携を強化しています。薬剤師の使命である有効で安心・安全な薬物療法を提供できるよう、組織をあげて取り組んでいきます。

当院では、高い専門性を持った他職種との連携が容易であり、薬剤師としてのスキルアップが可能な優れた環境です。この恵まれた環境下で、職員だけでなく、薬学生への実習や卒業後の研修制度を通じ、多職種協働によるチーム医療が実践できる薬剤師の育成にも力を入れたいと考えています。



PROFILE

たなかあきひろ◎2000年岡山大学薬学部卒業、2002年愛媛大学医学部附属病院薬剤部。2011年4月から同感染制御部で副部長を兼任、2014年10月より薬剤部の准教授・副薬剤部長を兼任し、2017年4月から現職。2007年日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師、2013年腎臓病薬物療法専門薬剤師取得。趣味はゴルフと読書。

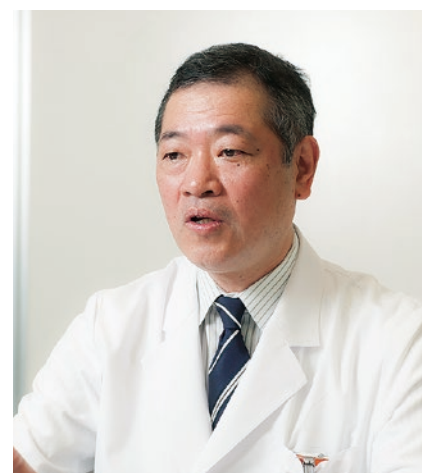
新診療支援部長紹介

部門全体でのスキルアップと、現在・未来の人材確保

診療支援部長 宮本仁志

昨年度までは臨床検査技師などを統括する臨床検査技術部門に所属していましたが、この4月から診療支援部長に就任し、13職種140人全体の把握と理解が必要となりました。大所帯ですから責任も大きいですし、近年は臨床現場からの要望が増えてきているので、人員の育成と確保という両面から対策を行っていかねばなりません。我々は専門性の高い職種です。一つの病気に対し、多種多様な治療薬や治療法が開発されている現代において、大学病院として対応するために、チーム医療で関わる医師や看護師と一緒に、私たちもスキルアップする必要があります。13職種全体のスキルレベルの底上げが、私の重要な役割だと考えています。

また、現在だけでなく、将来の人材確保も私の役割の一つだと思っています。愛媛県内の中高生に向けて、診療支援部の仕事がどれほど大切かということを積極的にアピールし、中高生が思い描く将来の選択肢の一つになってほしいと考えています。また、より若い世代にも医療職について興味を持ってもらうため、各種セミナーや職場体験をたくさん開催していきたいと思っています。



PROFILE

みやもとひとし◎1982年愛媛県立臨床検査専門学校卒業、臨床検査技師資格取得。同年、愛媛大学医学部附属病院検査部。2010年診療支援部の臨床検査技術部門副部門長などを経て、2017年検査部臨床検査技師長と診療支援部長を兼任。2017年4月から現職。趣味は映画・音楽鑑賞とスポーツ観戦。座右の銘は「吾唯足知（わたれたたるをしる）」。

新任教授紹介

ドクターヘリを活かした、一歩先の愛媛の救急医療体制の構築

救急航空医療学 教授 佐藤 格夫

新任教授としての私の使命は、ドクターヘリを活用しながら、愛媛県全体の救急医療の連携をサポートしていくことだと考えています。ドクターヘリの活用には、愛媛県の各地域の病院の医療関係者、消防などの行政機関との連携が不可欠で、顔の見える関係を築くことが重要です。特に交通事故などの現場では、地元の消防、救急隊が、これは重症かもしれないと察知して、いち早くドクターヘリを要請することが必要です。一人でも多くの傷病者がドクターヘリの恩恵を受けられるように連携をとっていきたいと思います。

救急医療というと、救急医の医療と思われがちですが、どの診療科の医師も自分の患者が急変し、救急患者になるケースがあります。つまり、多くの医療関係者に救急医療やドクターヘリを理解してもらいたいと考えています。愛媛大学ということで研修医や学生等を含めた若手には、救急医療について理解してもらい、将来、愛媛県の色んな地域で活躍、急変時対応、また適切にドクターヘリを活用してもらえるよう指導していきます。そのような若者の中から愛媛県に不足している救急医を選び、フライトドクター・フライトナースになってくれる人が現れることを夢見ています。

オール愛媛で愛媛県の救急医療・地域医療がより良くなるように努めていきます。是非ご協力をお願いします。



PROFILE

さとうのりお◎1995年愛媛大学医学部卒業、同年日本医科大学救急医学教室、2011年京都大学初期診療・救急科の講師・准教授などを経て、2017年4月から現職。専門は救急医学・急性期外科・集中治療。趣味は若者への無償の愛。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

編集後記

本格的な夏を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか。真夏の南風は暑しく感じることもありますが、当院では4月から就任した新教授や新部長が心地よい新しい風を吹かせています。本号ではそれら新教授、新部長5人を紹介しています。また、表紙は2月から運行が開始されたドクターヘリの写真です。救急要請があれば、ドクターヘリは県内全域に30分以内で到着できます。本号で紹介しております佐藤教授を中心に、当院も基幹連携病院として、愛媛県内全域の救急医療に貢献していきます。

さて、次号は記念すべき50号です。当院の歩みを振り返りたいと思います。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙

救急航空医療学 教授 佐藤 格夫
看護師 白川智也
—— ドクターヘリ ——

白衣授与式を実施



白衣授与式は、病院実習の資格を得た医学生が、医師を志す者としての自覚を再確認するために実施しています。5年生一人一人に10人の教授が白衣を羽織らせ、固い握手と激励を行いました。今年からご家族にも参加いただき、白衣姿の学生と一緒に写真を撮る微笑ましい姿も見られました。

学務課 ☎089-960-5175

ダヴィンチ手術
トレーニング見学施設に認定

当院の泌尿器科が、ダヴィンチ（内視鏡手術支援ロボット）を用いた手術の症例見学施設として認定されました。この認定で、ダヴィンチ手術実施のための資格を取得する際、医師に義務づけられている症例見学を、当院で実施することができるようになりました。

総務課 ☎089-960-5943